「第３回 高松塚周辺地区再整備方針検討委員会」議事要旨

【日　時】 令和 5 年 12 月 21 日（木）10：00～12：00
【場　所】 国営飛鳥歴史公園館　2 階視聴覚室、オンライン会議室の併用
【参加者】（委員）小野委員長、井原委員、里中委員、染川委員、武田委員、筒井委員
（協力委員）　明日香村　森川村長
公益財団法人古都飛鳥保存財団　田中常務理事
奈良県地域デザイン推進局　中村次長(代理出席)
文化庁文化資源活用課　津田補佐(代理出席)
国土交通省近畿地方整備局建政部　中橋部長
※ 下線：web での出席

【議事事項】
事務局より議事の説明
（１）第２回委員会の意見概要と対応について
（２）高松塚周辺地区の再整備方針（案）について

【再整備方針に係るご意見】

（１）高松塚周辺地区再整備方針の基本的な方向について

○「1）高松塚周辺地区再整備の基本的な方向」について、①、②、③と文章で書かれているが、それぞれ見出しを付けて整理すべき。

○③は「検討委員会の指摘」として記載されているが、委員会の意見はここだけではなく、再整備方針全体に反映されているのだから、ここだけ委員会の指摘と書くのはおかしい。

○「１）高松塚周辺地区再整備の基本的な方向」で挙げた事項が、「２）高松塚周辺地区再整備方針」にどう繋がるのかという論理が欠けている。②の課題では、老朽化など避けられない課題や、世界遺産登録などの外的な条件に加え、５つの主要機能が、相互に密接に関係し機能していないためストーリーが伝わらないという課題や、ゲートウェイ機能も十分に発揮できていないといった課題を書くことで、その後の「２）高松塚周辺地区再整備方針（方針①、方針②）」につながるのではないか。

（２）高松塚周辺地区再整備方針（方針①、方針②）について

○方針①と方針②の関係性が分かりにくいと感じた。方針①は高松塚周辺地区県道西側エリアの方針を示していて、方針②は公園全体の方針を示していると理解したが、その関係性が示せると良い。

○方針①と②に内容がオーバーラップしている。特にゲートウェイ機能や、地区全体の繋がりについての記載について重複が多い。方針①と方針②で書かれている内容は基本的には同じで、違いはエリアのスケール感の違いということではないか。

○方針①の内容はあくまで「方針」なので、「施設の再整備を行う」という書き方ではなく、「機能の向上を図る」などが適切ではないか。

○方針①は、「遺跡・文化財についての理解促進とゲートウェイとしての機能向上」となっているが、ゲートウェイ機能の説明文に再度「理解促進」という言葉があり、入れ子構造となっている。「理解促進」がゲートウェイ機能にも含まれるのであれば、方針①は「ゲートウェイ機能の向上を図る」とすれば良いと思う。

○方針①②の下にひし形の見出しで記載されている内容が、機能の説明なのか具体の整備内容なのかヒエラルキーを統一できると良い。方針部分に機能向上を図る旨を記載し、ひし形では具体の整備内容を記載してはどうか。

○方針①②の下のひし形の見出しと、その後に出てくる「再整備するにあたって留意するポイント」の関係が分かりにくい。さらに P31 で「留意すべき事項」が出てくるなど、全体の構成が整理されていない印象を受ける。

○外国人観光客が、この場所が日本の歴史上重要な場所であると理解できても、残されているものは古墳だけなので、「形」だけで満足してもらうのは難しいと考えている。日本の古来の死生観に基づく古墳は、自然に還ることを前提に作られていて、それは「自然と人の命が一体化している」という考えを感じてもらえると良い。

○民族の価値観が最も現れるのが葬送儀礼とお墓のあり方だと思っており、日本人らしい価値観が表現されたお墓のあり方や、死の捉え方、見送り方、死後の世界について伝えることができれば、それを飛鳥の風景から感じてもらえるものがあるのではないか。こうした日本的な価値観が静かに深く伝わる場所になれば良いと思う。

○方針の中で「歴史的風土を体験頂ける等、魅力を向上させる～」と表現されているが、このような表現では十分に伝わりにくい。この場所でじっくり歴史的風土を味わったり、その価値を外国の方でも分かってもらえるような仕掛けの必要性の表現がちょっと薄いと思う。

○「魅力向上」といった計画書的な言葉で書くと弱くなってしまうが、風土を味わう、滞在性を高めるなど、ここでどれだけ時間をかけて、どれだけこの場所を味わってもらうかという観点で、ここでゆったりとした時間を過ごすという概念を組み込めると良い。

○方針②は、里山的な環境の中で徐々に自然に還っていくような「古墳」の存在する公園として、どのようにランドスケープを整えて体験いただくかといった視点で記述できると良い。

○方針①②の順番について、ストーリー性など深い話につながるのは方針②かもしれないので、こちらが前になる可能性もある。方針①②そのものの再考とあわせ、引き続き検討してほしい。

（３）「持続的な運営管理」および「今後の取り組みにあたって留意すべき事項」について

○「3）持続可能な管理運営に向けての取組み」と、「4）今後の取り組みにあたって留意すべき事項」について内容がオーバーラップしているため、3）、4）を一体的に整理したほうが分かりやすいかもしれない。または、3）は公園内、4）は公園内だけで完結しない地域との連携に関する内容とするなど、明確に分類できると良い。

○再整備方針で決めた整備内容や管理運営方法をずっと続けるのではなく、社会情勢や利用者ニーズの変化に応じて、実施内容を見直す、順応的な管理運営（アダプティブマネジメント）を行っていくべきであることをどこかに明記できると良い。

○「順応的な管理運営」は大変大事なキーワードだと思う。変化し続けるニーズに対応するためにも、順応的な管理運営ができるとよい。

○経費削減のために民間に任せるというのは本質的でない。サービスの質の向上と管理コストの縮減を目的として、民間活力の導入の効果を考えるべきだと思う。

○「ゲートウェイとしての機能向上」については、ゲートウェイ機能を持ちうる施設として、飛鳥駅周辺の施設等も想定されるため、複数のゲートウェイで役割分担していくことを今後の取組みとして記載できると良い。

【その他のご意見】

○案内・展示の基本的考え方として、外国人向けの大所高所的な視点での解説があると良い。例えば、「飛鳥時代とは」、「文化財とは」等、我々が常識として知っていることも、分かりやすく解説できると良い。

○海外の例では良くみかけるが、「私たちは文化財や歴史・風土の保全に取り組んでいます」といったように、保全に向けてどのような考えでどのような活動をしているか主張するような展示も必要と考える。

○施設の内容を充実させるためには、インタラクティブな要素や体験型の展示を取り入れることが重要だと考えている。

○施設を作って終わりにせず、常にニーズに応えてアップデートしていく必要があると考えているが、デジタルコンテンツであれば更新が容易ではないか。また、AI などの最新の技術を活用すれば、より細かく利用者ニーズを分析できると考えている。

○展示に係る技術はどんどん進化おり、3~5 年後にはまた状況が変わっていると思うので、アップデートのための体制を方針に組み込んで欲しい。

○「ユニバーサルデザインへの配慮」については、同じような「インクルーシブ」という概念が提唱されているが、必要に応じてそのような考え方を取り入れるべきではないか。

○駐輪場や休憩施設、サイン類といった広域周遊にも関わる施設については、当地区だけでなく、国営公園各地区や飛鳥地方全体で、統一的な考え方でデザインしていくべきである。

○樹木の管理については、伐採反対意見等が出ることもよくあるので、適切に説明できるよう伐採や更新の考え方を論理的に整理しておくと良い。

○施設等の整備にあたっては、キャッシュレスを前提とした利用に対応することを、最初からしっかり打ち出しておいた方が良い。

○（協力委員）日本人独特の特性が心の中に現れるようなストーリーを伝えることが重要。新たな施設に一番求めているのは、そういう背景を持ったうえでのキラーコンテンツを提供することだと思う。

○（協力委員）民間参入による夜間のイベントの実施も想定し、夜間も使用可能なインフラの整備も必要。

○（協力委員）方針①のゲートウェイ機能を、どの施設でどのように実現するかを具体的に書くことが非常に大きなポイントになると思う。飛鳥駅の再整備と高松塚のエリアをどのように繋げ、どう機能分担して、どのような施設を作るのかが非常に大事になってくると思う。

○（協力委員）行政側の立場からそれぞれの省庁の役割分担、責任の明確にしつつ、関係省庁・地元が連携し、整備を推進していきたい。

（以上）